

第2264回 例会 金沢8RC 新年合同例会
1月12日(木) 晴れ / 18:30 ~ 20:00 [ホテル日航金沢]

- 1. 出欠**
出席 15名 欠席 24名
(8RC計 283名)
- 2. 御祝儀**
素囃子「操三番叟操」 三茶屋芸妓連・会員有志の皆さん
- 3. 例会**
開会点鐘 金沢百万石RC次年度会長 助田忠弘君
国歌斉唱「君が代」
ロータリーソング「奉仕の理想」
ホストクラブ会長挨拶 金沢百万石RC次年度会長 助田忠弘君
閉会点鐘 金沢百万石RC次年度会長 助田忠弘君
- 4. 懇親会**
乾杯 石川第1グループB ガバナー補佐 高橋 功君
芸妓の舞「金沢風雅」三茶屋芸妓連
中締め 石川第1グループA ガバナー補佐 諸江 隆君
閉会挨拶 次期ホストクラブ 金沢RC次年度会長 松崎 充意君
ロータリーソング「手に手つないで」



第2266回 例会
2月2日(木) くもり / 12:30 ~ 13:30 [松魚亭]

- 1. 講話**
木下和吉君 (会員)
「私の職業」
 - 2. 出欠**
出席 28名 欠席 11名
 - 3. 幹事報告**
・金沢百万石 RC25 周年記念例会の件
 - 4. 委員会報告**
・親睦委員会 2月夜間例会の件
 - 5. お誕生日お祝い**
中川君 (10日)、山上君 (29日)
 - 6. ご結婚記念日お祝い**
中川君 (7日)、宮毛君 (25日)、中村 (芳) 君 (26日)
 - 7. ニコニコボックス**
小泉君、木村 (康) 君
木下会員、本日の卓話有難うございます。木下さんの豊富なご経験が 30分に収めるのは大変だと思っておりますが、楽しみに聴かせていただきます。
内堀君 2週間ぶりの例会、皆様と会えて、楽しいですね。本日の木下会員の卓話楽しみです。
中川君 今日53歳になります。お祝いありがとうございます。
山崎君 木下会員 本日の卓話楽しみにしています。今後ともご指導宜しくお願いします。
- 合計 9,500円 (累計 329,500円)



第2265回 例会
1月19日(木) くもり / 12:30 ~ 13:30 [松魚亭]

- 1. 講話**
卯年生まれ会員 (木下和吉君、小泉幸雄君、木村康徳君)
「年男今年の抱負」
- 2. 出欠**
出席 32名 欠席 7名
- 3. 皆出席顕彰**
松本範夫君 (34ヶ年)
- 4. お誕生日お祝い**
河合君 (1日)、永井君 (2日)、小泉君 (12日)、吉井君 (14日)、今村君 (15日)、内堀君 (25日)、木村 (康) 君 (25日)、水巻君 (28日)
- 5. ご結婚記念日お祝い**
小泉君 (16日)
- 6. ニコニコボックス**
小泉君、木村 (康) 君
明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。年男の抱負、木下大先輩と我々の抱負をお聴き下さいませ。
松本君 34ヶ年の顕彰ありがとうございます。
内堀君 年男3名様のご今年一年益々のご活躍をご祈念申し上げます。
中村 (實) 君 新年あけましておめでとうございます。今年の願ひは、50周年事業の成功と妻の足腰の痛みが治ります様に!!
魚住君 年忘れ会作品展より 11万円をニコニコボックスへ
合計 119,000円 (累計 320,000円)



第2267回 例会
2月9日(木) 晴れ / 12:30 ~ 13:30 [松魚亭]

- 1. 動画視聴**
「ポール・ハリスとロータリー」
職業奉仕委員会
- 2. 出欠**
出席 28名 欠席 11名
- 3. 幹事報告**
・ロータリー手帳の件
- 4. 委員会報告**
・親睦委員会 2月夜間例会の件
- 5. ニコニコボックス**
小泉君、木村 (康) 君
本日は、職業奉仕委員会でご用意いただいたビデオ鑑賞で、「ロータリーとは何ぞや」をしっかり学びたいと思います。
合計 3,000円 (累計 332,500円)



3月予定

金沢市内 RC の例会変更は各クラブホームページでご確認いただくか、事務局へお問い合わせください。

- 3月 2日 (木) 例会 次年度理事会
- 3月 9日 (木) 例会 定例理事会
- 3月 16日 (木) 例会 戦略委員会
- 3月 23日 (木) 休会 (祝日週)
- 3月 30日 (木) 例会

金沢北ロータリークラブ



発行 2023.3.2thu

No. 993

事務局/金沢市大手町15番15号 金沢第2ビル4階
TEL:076-254-6368 FAX:076-254-6395
E-mail:office@kanazawa-north.jp
HPアドレス:http://www.kanazawa-north.jp



「尾山神社の紅梅」

柴田三郎さんて、どんな人

修練・研修委員長 内堀 茂

例会場のテーブルに「ロータリアンの信条」一金沢北 R.C. 故 柴田三郎一が置いてあります。ある日それを見ながら会員の一人が私に「柴田三郎さんて、どんな人？」と問いかけました。私は答える事が出来ずこれを機会に柴田三郎さんを知ろうと思いました。幸いな事に RC 事務局に柴田氏の著書「随想 私のロータリー三十年」が一冊残されており早速読ませていただきました。

その一部を紹介したいと思い、会報に載せることにしました。

柴田三郎さんの紹介 (当時の金沢市長・江川昇氏)

柴田三郎さんは、かつては石川県漁網協会、のち改組して石川県漁網工業協同組合理事長などを永年にわたって勤め、業界指導の先頭に立ってこれら中外製網株式会社取締役社長で、わが国同業界の重鎮であります。

その柴田さんが、文筆がたって、美術鑑賞の眼が高く、自らも絵を描く文化人であることは、よく知られているところです。

温厚、明朗、協調的で、世話好きな性格から、いつもにこにこして親しみ深く、笑いながら話しかけてくる顔が、すぐ目に浮かんできます。

熱心なロータリアンで、元金沢ロータリークラブ幹事、金沢東ロータリークラブ会長のほか、金沢北ロータリークラブを創立されて移籍し、地区ロータリーの多くの役職を歴任し、奉仕活動を続けられている姿は涙ぐましい限りです。(中略)

柴田さんの文才は、昭和四十九年「ロータリーの友」が募集した「ロータリー何をなすべきか」の論文に応募されて、見事第一席に入賞されたことでも力備がしのばれ、定評があります。(以下略)

“ロータリーの友” 応募論文入選一席 「ロータリー何をなすべきか」

ロータリーの最善はなされていない

創始以来六八年余（※現在は百年余）、思えばこの歳月は長い。ロータリーは、よくぞここまで持続し、発展して来たものである。ロータリーには光輝ある綱領、理想あるが故であろう。ロータリーを護持して来た先達のたゆまぬ貴重な努力の遺産でもあろう。

今も、ロータリーを追求し、希望と情熱を燃やしつつある多くのロータリアンがある。反面、深くロータリーを究めようとも、知ろうともしないが、そのエリート（？）集団に心ひかれ、ただ、つかずはなれずの人々も次第に多くなっているのも事実である。

諸外国の実態はいざ知らず、日本のロータリーは近年急激に膨張し、粗製濫造の様相さえ見え、その果ては、目的の焦点ボケとなって、ロータリーは半身不随、希望は失望に、情熱は冷却へとつながる懸念は大きい。(中略)

R I に、地区に、クラブに、会員に、ロータリーは正に、刷新の転機に直面している。ロータリーは因習的に偏重の打破と近代化、更に個々のロータリアンのすべてが本然の姿に立ち返ることこそ急務である。“ロータリー何をなすべきか” 以下、私は敢えて率直に提言したい。

(中略)

日本の各府県単位にガバナーが欲しい

ガバナーの任務は極めて重大であり、ロータリーの盛衰がかかっている。と、言っても過言ではなかろう。しかるに現況は、年一回のクラブ公式訪問が精いっぱいであろう。その上、所管クラブの行事やセレモニーを始め、ロータリーの諸会議、勉強会、事務など心身の重労働が強いられている。

一都道府県に一名または二名のガバナーを置くことによって、ガバナーの指導力は充分に、キメ細かく発揮され、徹底し、ロータリーの充実と発展に最も効果的偉力となるに違いない。また、制約が緩和されることによって、ガバナーの人材も広く求められるに到るであろう。(中略)

例会重視の再確認を

「ロータリーは、旦那衆が集って昼食を共にする寄付団体らしいが、えらく出席をやかましく言うそうな」ぐらいに、受けとっている世の人々も案外に多いのではなかろうか。事実、ロータリー自体、例会運営が安易に、形式化し、マンネリ化してはいないだろうか。

クラブの例会は、ロータリアン親和のグラウンドでもあるが、それ以上に、厳しき錬成の道場であり、ロータリー至上の最も重要な会合であるべきが忘れられていないだろうか。例会はロータリーの原動力をなすものであり、会員が切磋琢磨しあい、併せて友情の絆を深めつつ、事業を語り、人生を論じ、ロータリーを究める修養の場であるべきを、重視し、再確認されねばならない。(中略)

ロータリーは質か量か、新しい拡大を

質か量か、論議はつきないが、良質の量は言うまでもない。が、歴代のガバナーは、R I の指示に追従、判で押したように、拡大の美名のもとに会員増加を強制的観さえある。クラブは誰れのものか、私は抵抗を禁じ得ない。日本のクラブは飽和状態にありながら、クラブ運営の経理上の事情も加えて、余りにも安易に会員をふやしつづつある。(中略)日本人のすべてをロータリー会員にせんとする志向よりも、日本全土

に深く根をおろし、実りあるロータリー精神を植えつける。真のロータリアンの育成こそ肝要であろう。

職業奉仕をロータリーの根幹に

ロータリーの根幹をなすものは、いわゆる“職業奉仕”であり、職業に対処するロータリーの理想実践、倫理の探求、職業の浄化こそ、ロータリー最大の悲願であらねばならない。しかるに、今のロータリーはスタンドプレーと、浮身をやつすに終始している感さえあって、外観は豪華に、内容は空虚に、ロータリーの本質、根幹が忘れられんとしている。ロータリーの混迷と、悲劇はここに始まるのである。

倫理の追求と、自我との闘いは苦しく、宿命でもあろう。が、ここにこそロータリーの存在意義があり、乱世の今、特にロータリー活動の展開が痛感されるところである。(中略)今こそ、すべての職業人の自省自戒が見直されねばならない。(中略)ロータリアンの使命の、今ほど重大な時はない。ロータリーの理想を顕現し、再確認がなされねばならない。

ロータリーの終着は Four-Way Test

元 R I 会長テイラー氏の”四つのテスト“は不滅にして黄金の名言である。”奉仕の理想”を一言にしていうならば“思いやり”であり“超我の奉仕”(Service Above Self)であろう。それを具体的に表現したのが“四つのテスト”と、私は受け止めているが、その日本語訳には最近いろいろ論議はある。が、私は、原作者の意図、精神を推測しつつ、現在の日本語版を大きく崩さない程度に、次のような試案を得た。

うそ、偽り、無理がないか。
正々堂々筋が通っているか。
善意と友情に徹しているか。
世のため人のためになるか。

右するか、左せんか。ロータリアン处世の言動は、ここに始まり、これを終着とすべきではなかろうか。

ロータリー創立記念日を迎えて 反省、そして原点をみつめよう

最初のロータリークラブは、一九〇五年（明治三八年）二月二三日シカゴにおいて、弁護士ポール・ハリスなど四人の人達によって誕生した。(中略)

さて、この偉大なる発展、持続の秘密は何であろうか。……創立当初は、会員間の職業上の相互扶助と友好親善の二つを目的としたようである。私は思う、これだけであったらロータリーは今日の拡大、持続は見なかったであろう。(中略)

最初のシカゴクラブが創立した翌年の一九〇六年一月、会員の中から、クラブの目的として、相互扶助と親睦だけでは満足出来ない。と、追加されたのが「シカゴ市の最善の利益を振興し、会員間に市民としての誇りと忠誠の精

神を鼓舞すること」であった。(中略)

これだけではない更に四年後の一九一〇年八月には、五カ条からなるロータリー最初の綱領を決定した。(中略)一九一五年において、十一カ条からなるロータリーの倫理訓が決議された。(中略)特に私の感銘深き二つをご紹介します。

わが身を修め、わが能率を向上し、わが奉仕を拡大すべきこと。そうすることによって、最も良く奉仕するもの、最も多く報いられる。というロータリーの基本原則に対して忠実なることを立証すべきこと。

我等は実業人であり、成功の野心を抱いていることを認める。同時に、道徳を重んずる人間であり、最高の正義と道義に基づかざる成功は、これを欲するものではないことを自覚すべきこと。

私は更に思う。ここにおいて、ロータリーの永遠なる生命、崇高なるロータリー精神の基礎が確立したのである。五年刻みの大躍動である。私が、ロータリーの一節（ふし）は五年と提唱する所以の一つである。五周年、十周年等々の祝典は日本のロータリーによく見るところであり、それは結構である。が、仮りに五年間を啼かず飛ばず無為に過ごして、ドンチャン騒ぎ、若しくはスタンドプレー的な形だけの事業で、お茶をにごすような事でもいいのだろうか。と思うことがある。

創立記念日の趣旨は、原点に返えることであり、初心忘るべからずの教訓を思い起こす事であり、先達の偉業に学ぶことであろうかと考える。ロータリー創立、クラブ創立、わが事業の創立、わが職業のスタートの当時を思い顧みて、覚悟を新たにす意義は大きい。記念すべき日は忘れてはなるまい。

終わりに

子曰く、學びて時に之を習ふ、亦説ばしからずや。朋、遠方自り來る有り、亦樂しからずや。人知らずして慍らず、亦君子ならずや。

「随想 私のロータリー三十年」柴田三郎著、昭和 58 年発行

